

高山

たかやま
高山の原生林を守る会

会報 第 84 号

2013年3月



自然保護と脱原発 佐藤 守

高山の原生林を守る会は2013年で26年目を数えることとなった。当会の設立は1987年の福島市の高山スキー場構想に端を発している。吾妻連峰の一峰である高山には県庁所在地では全国的にも比類のないブナ林が存在し、更にはシラビソの北限となっていることが明らかになり、福島県では尾瀬以来の市民レベルの自然保護運動が展開された。高山は尾瀬とは異なり、山スキーを楽しむ一部登山者以外は知る人の少ない無名峰であった。しかし、その森林保護のために、それまでの自然保護運動としては異例の多くの市民が参加した。過去の自然保護運動と同様に、その活動を牽引したのは初代代表の穂積正氏の自然を畏敬する強烈な個性であった。一方で、スキー場建設反対運動の基盤となる高山や吾妻連峰の植生調査を担ったのは、県内の山岳会を中心とした登山愛好家達であった。山頂を目指すことしか念頭にない登山を行ってきた多くの登山家は、植生調査を通じて、山に登って森を見てこなかったことに思い至り、以後の登山姿勢も大きく変化した。

白神山地の世界遺産指定を機に、かつてなく森林生態系保護の世論が高まり、吾妻連峰も森林生態系保護地域として指定され、高山スキー場建設構想は終息した。実は、この時期は全国的にブナ林を中心とする森林生態系を保護する活動が高まり、多くの自然保護グループが誕生している。その活動の中心になった理念は、経済活動を優先した安易な森林開発に対する評価の見直しであった。森林開発の目的はスキー場、ゴルフ場、ダム等、公共の福祉実現を目的とした経済活動であり、短期的には開発により金銭的、防災の効果として目的は達成されてきた。開発に要する国家予算は膨大であり、それにより巨大企業が生まれ、戦後日本の発展を牽引してきた。しかし、森林伐採による負の影響は長い時間を経て、生態系の破綻として発現する。つまり開発型経済効果と生態系破綻では発現までの時間軸が全く異なるのである。

2011年3月15日に東京電力福島第一原子力発電所で人災による事故が発生し、チェルノブイリ事故以来の大規模な放射能による環境汚染が発生した。東京電力福島第一原子力発電所は昭和46年(1971年)から運転を開始した。水力発電や火力発電が大規模自然破壊や大気汚染と引き換えに運転されていることが社会問題化した時期に、自然にやさしく経済効果の高い発電方法の旗手として登場したのである。東京電力福島第一原子力発電所から放出された放射性核種の量は、 ^{131}I (ヨウ素131)35g、 ^{134}Cs (セシウム134)376g、 ^{137}Cs (セシウム137)4.7kgと試算されている。たったこれだけの量の放射性核種が飛散しただけで、多くの福島県民の日常生活が破壊され、いらぬ差別と混乱を招き、膨大な国家予算が支出されている。運転開始から39年で起きた事故であり、この39年間の短期的な経済効果と100年以上はかかるだろう事故処理に要する経費とでは比較にならないことは容易に想像できる。加えて、事故により汚染された森林環境の回復にいたるプロセスは未知の領域である。原子力発電も森林開発同様、為政者が想定する経済効果と破綻の時間軸が異なるのである。

このような観点に立てば、森林開発と原発推進の対立軸としての自然保護と脱原発は共通軸を持つことは容易に理解できる。事故発生翌年に「終息宣言」を発した政権に代わり、「経済優先」を旗印にした現政権が誕生した。しかし、現政権の基盤政党は原子力発電を推進してきた責任政党である。前政権も現政権も森林開発や原発がはらむ時間軸を理解しているとは思えない。特に「経済的インセンティブ」というあやしいな体裁をとりつくろった刃を、脱原発を目指す人々に振りかざす現政権の姿勢にはとてもいやらしさを感じる。



福島ではどこでも見られる除染看板

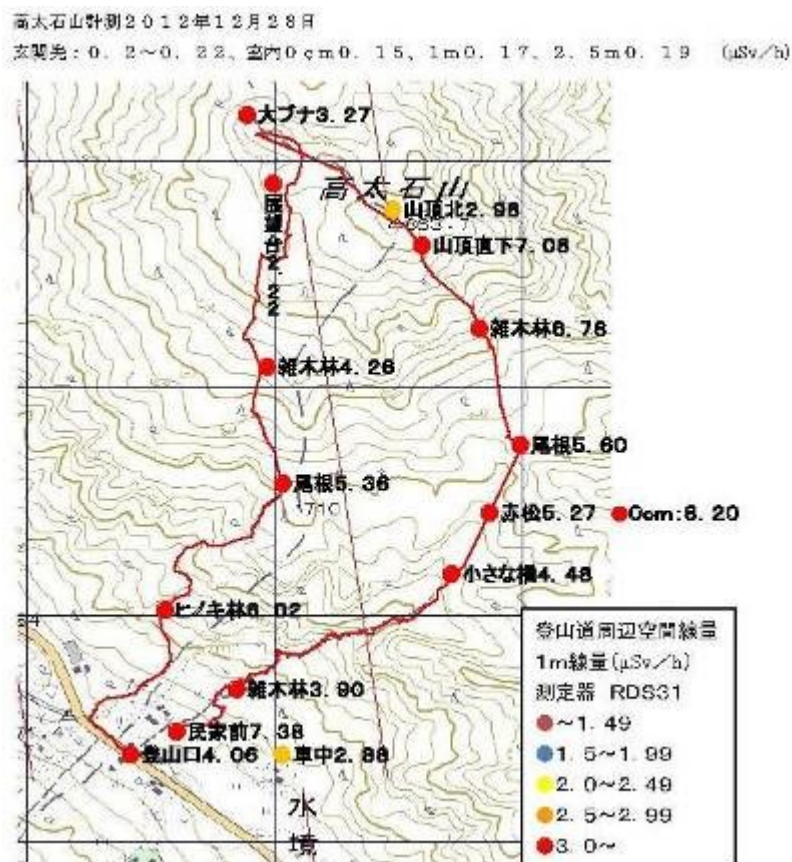
福島の山岳放射線量測定報告

2012年に奥田さんが調査した県内山岳の放射線量測定結果を紹介します。1部の山岳を除いて、高さ1mで測定しております。線量計で測定される空間線量は、その位置の周辺環境全体から放出されたγ線のエネルギー

量を測定したものです。通常は土壌表面に沈積した放射性物質の影響が強いのですが、常緑針葉樹林帯の場合は、葉での付着量が高いので、必ずしも土壌表面の放射性物質からの放射線量を測定していることにはなりません。また、山頂では周辺の影響が少ないので空間線量の測定値は低くなります。

空間線量は経時的に減少します。理論的な半減期は3年ですが、居住地のように有機物が少なく、除染や排水路の整備が進んでいるところでは、早く低下します。しかし土壌中の放射性物質は、土壌を剥ぎ取っていない場合は、空間線量の減少ほどは、減っていません。また森林では居住地と比較すると経時的な減少速度は遅いです。例として霊山の登山コース中の空間線量は1年間の間に物理的半減期による減少よりも5%程度多く減少しましたが、農地や居住地では物理的半減期の倍程度まで減少しています。

山岳の放射線量の変化は広葉樹林と常緑針葉樹林では、異なると考えられますので、今後はこれらに注意を払って観察していく必要があります。



高太石山の放射線量マップ

山岳放射能測定報告				2012年1～12月 まとめ:奥田 博 単位:μSv/h		
月日	山名	場所	1m測定値	0m測定値	測定器	備考
1月7日	竜子山	境ノ峠バス停	0.92		RDS31	田村市場(舗装)
		牧場跡650m	1.65			芝
		山頂	1.10			雑木林
		東尾根雑木林	2.45			
		峠	1.25			杉
		上野川	2.85			芝
1月9日	花塚山	花塚の里登山口	0.71		TCS172	舗装
	川俣町	町村境手前大岩	3.90			大岩
		山頂	1.82			開き
		比曾十字路	3.50			雑木、峠状
		北峰	2.41			雑木
1月17日	滝富士	登山口	1.55		RDS31	舗装
	いわき市	谷間・旧田圃	2.45			山頂見える、谷間、赤松
		山頂	1.75			開けた山頂
		谷間・旧田圃	2.25			雑木林
		戸ノ草登山口	1.25			舗装
1月18日	西大巖	リフト終点	0.12		RDS31	積雪2m?
		山頂	0.15			積雪2m?
4月13日	権太倉山	聖岩登山口	0.18		RDS31	舗装
		山頂	0.20			雑木
		林道下山口	0.15			松林
		田ノ沢林道手前赤松	0.33			舗装
4月22日	鳥屋山	登山口	0.06		RDS31	舗装
		山頂	0.11			開き
5月11日	朝日山	東登山口	0.25		RDS31	赤松林
	塙町・いわき市境	分岐	0.55			雑木
		山頂	0.81			開き
		西登山口	0.22			林道
5月24日	明神山	登山口	0.14		RDS31	
	いわき市	明るい尾根	0.35			
		スギ林	0.55			夫婦杉
		神社	0.25			ブナ
		山頂	0.31			開き
6月23日	猫魔岳	八方台	0.20		RDS31	駐車場
	会津	猫魔山頂	0.17			展望
		厩岳山	0.22			草地
		蔵川登山口	0.12			雑木
7月15日	高山	鳥子平	0.18		RDS31	湿地
		針葉樹林帯	0.22			最高値
		山頂	0.16			空間地
8月22日	恵みの森	登山口	0.08		RDS31	雑木
	会津	中滝	0.09			沢
	癒しの森	入口	0.10		RDS31	スギ
		マザーツリー	0.08			ブナ
9月6日	雲山	湧水の里登山口	0.25		RDS31	舗装
		雲山神社分岐	0.77			草地
		山頂直下檜林	0.95			ヒノキ林 最高値
		山頂	0.85			広場
9月22日	一切経山	山頂	0.08		RDS31	空間地
9月24日	鬼ヶ城山	登山口	0.25		RDS31	赤松
		分岐(登山・下山)	0.52			雑木林
		アカマツの下	1.65			赤松
		山頂	0.45			岩場
		ブナ周辺	0.65			雑木林
		ブナ樹幹流	4.22	17		
9月30日	前ヶ岳	林道(車停車)	0.21		RDS31	赤松
		登山口	0.17			雑木
		中間地	0.19			ヤシヤブシ林
		山頂	0.12			空間地
10月12日	箕輪山	野地温泉	0.12		RDS31	駐車場
		鬼面山	0.08			空間地
		箕輪山	0.11			空間地
		笹平下草原	0.55			標高1500m
		灌木帯	0.72			標高1450m
		僧侶台(霧降分岐)	0.08			カラマツ林
		湯川丸木橋	0.20			雑木林
		塩沢スキー場	0.19			草地

月日	山名	場所	1m測定値	0m測定値	測定器	備考
10月13日	大戸岳	登山口	0.09		RDS31	佐藤守計測
	会津	水場	0.11			雑木林
		沢源頭部(急坂)	0.15			岩場
		山頂	0.11			空間地
10月24日	御前ヶ岳	登山口	0.06		RDS31	駐車場(舗装)
		山頂	0.07			草地
	伝上山	宮床湿原	0.06		RDS31	湿地
		伝上山	0.06			草地
10月25日	那須沢山	登山口	0.08		RDS31	舗装
		山頂	0.08			藪
10月30日	額取山	滝登山口	0.17		RDS31	カラマツ林
		分岐	0.27			赤松
		額取山	0.15			空間地
		大荷旗山	0.17			空間地
		峠(車道)	0.20			舗装
		高橋山公園入口	0.17			舗装
11月18日	虎捕山	神社登山道	3.09		TCS172	
		奥の院直下梯子	4.41			最大値
		奥の院	2.25			
		谷筋キノコ		7.83		
11月18日	野手上山	登山口	4.33		TCS172	
		赤松下(中間)	6.64	10.7		最大値
		山頂直下	6.24	13.3		
		山頂	3.80			
11月19日	奴田山	小田山	0.10		RDS31	展望良好・笹
	会津	奴田山	0.08			雑木林
		青木団地(下山)	0.06			宅地(舗装)
11月19日	羽黒山	鳥居登山口	0.12		RDS31	雑木林・石段
	会津	山頂	0.20			雑木・ユキツバキと笹
		松平家墓(下山)	0.20			杉林・舗装
11月23日	八清山	山頂	0.19		RDS31	空間地
		池の平	0.36			雑木
		尾根中間部	0.47			雑木(南東面)
		高笹山	0.32			雑木
／		高笹山巻き	0.57			ヒノキ林(南東面・最大値)
		大神宮山	0.32			草地
		唐竹久保(下山)	0.17			舗装
11月25日	愛宕山	鳥居の登山口	1.05		RDS31	竹林
		雑木林	0.85			雑木
		山頂平坦地	0.75			杉と雑木
		山頂神社	1.15			杉・南東
		竹林	0.91			
		下山口	0.60			畑
11月28日	片曾根山	登山口	0.20		RDS31	福祉センター・公園
		道路横断手前	0.17			雑木
		第二道路横断前	0.18			杉林
		第二道路横断後	0.12			杉林
		山頂	0.20			芝
		林道	0.20			雑木
12月3日	古雲山	登山口	0.63		RDS31	舗装道路
		山頂	0.77	0.97		三角点
		下山放牧地	1.15			牧草地
		下山口	0.71			舗装道路
12月17日	鎌倉岳(常葉)	萩平入口	0.41		RDS31	舗装
		神社前	0.43			砂利道
		歩道入口	1.64			杉林
		登山道	0.48			カラマツと雑木
		中間部	3.06			杉林
		T字路	1.82			杉林
		石切り場跡	1.46			雑木
		急坂ロープ	0.35			岩場・雑木
		尾根	1.65			空間地・笹
		窪地	8.05	12.08		窪地・ヒノキ
		山頂直下北側台地	4.25			ヒノキ
		山頂	0.65			岩場
		畝側スギ林	0.52			杉
		中野青少年の家	0.36			舗装
12月18日	七峰	小斎峠	0.11		RDS31	小斎峠～鹿狼山
		金華山	0.23			ヒノキ
		音羽森	0.21			雑木
		主叢山	0.21			ヒノキ
		権現森	0.23			
		地藏森	0.43			芝生
		五社壇	0.23			ヒノキ林
		鈴宇峠	0.32			舗装
		鹿狼山	0.32			芝生
		鹿狼登山口	0.17			舗装

サクラガイ

鎌田和子

1月12日に、冬の鎌倉材木座海岸に出かけました。もちろん貝殻拾いからです。貝拾いの狙い目は冬場だそう。Mさんから、「鎌倉の友人がね、桜貝が拾えるようになったって言ってきたわよ。」との情報はもうだいぶ前に入っていました。

ワクワクしながら浜辺に立ちました。夏には見えなかった富士山が由比ヶ浜の方向に見えています。沖にはサーフィンの帆が並んでいます。砂浜に目をやると、桜貝がざっくざっく…というようにはいきませんでした。…ナニ?! …どこにもないじゃん。そんな〜!と心の内で叫びました。早朝に誰かが拾ってしまったの? 桜貝が見あたらないことを不審に思いながら、足下に落ちている貝殻を拾いました。夏に来たときには、「すごい見つけたよッ!」と貝殻のかげらばかり拾っていた孫が、今日は大きくて形がちゃんとしたのを拾うんだと張り切っています。レジ袋がたちまちいっぱいになったようです。でも、兄嫁からも姪からも「サクラガイ発見!」の声は上がりません。/ だいぶ時間がたつたころ、犬と一緒に渚を歩いてきた女性とすれ違いました。と、その女性が前かがみになったと思ったら、砂浜から何かを拾い、「サクラガイは透明だから見えにくいよね。よろしかったらどうぞ!」と、ひとひらの貝を私にくださいました。サクラガイが透明だなんて、考えもしませんでした。すごいヒントをありがとう!すると、その女性はまたサッと手をのばして貝を拾いました。そして、「ほら、これは今日一番の、黄色いサクラガイよ!」と、私の手のひらに載せてくれました(写真①)。「なんて目のいい人なの!」と感心するばかりでした。ましてや、そのとき、私にはその二枚貝が黄色い色をしているようには見えないのですから。…なるほど、サクラガイは薄いから濡れると透明になり、それが砂にピタッと吸い付いてしまっ見えにくくなっているのです。だから、他の貝殻と同じ感覚で探してはダメだったのです。

犬連れの女性の《透明》というひとことによって、今まで見えなかった桜貝が見えてきました。写真②がその中の一つです。《意識》すると、目の働きが変化することは、植物や蝶を観察していてよく経験することです。今回のサクラガイ探しでは、この《目》の《不思議な力》に助けられました。けれど、砂にぴったりくっついている状態の桜貝を、割らずに拾い上げることができるかどうかは、神のみぞ知る! 私にとって、麗しき桜貝ひとつ拾うことは、まるで幻の宝探しのようなものでした。(2013.1.18)



樺色のカバザクラ



桜貝は砂にぴったり
吸い付いていた…

鹿狼山から 24 ～被災地の成人式～

小幡 仁子

私が住む新地町は東日本大震災の大津波により甚大な被害を受けました。今も沿岸部は瓦礫こそ撤去されましたが、防波堤の残骸とコンクリート基礎だけ残る家々が、津波の破壊力のすごさを伝えています。ここに来る度に自然の猛威の前に、人は無力であることを感じさせられます。震災前は数メートルの高い防波堤により、町内や6号国道からは海が見えませんでした。震災後は至る所から海が見えるようになり、自分たちが海のすぐ側に住み、大津波がきたら命の危険があることを実感しています。

この大津波で新地町では100人を超える方が亡くなられました。その中に高校を卒業したばかりの若者達が10人いました。私の次男の同級生達でした。今年1月は町の成人式に新成人として出席し、大人への門出をみんな揃って祝うはずでしたが、それは叶わぬこととなってしまいました。

成人式の当日に、私はスーツ姿の次男を連れて実家に立ち寄りしました。父は「おお、カッコイイなあ」と目を細めて喜んでいました。次男の時は東日本大震災により、入学式はありませんでしたから、初めてスーツ姿を見たのです。そのうちに、「ネクタイの締め方が良くないから」と言って、自分のネクタイを持ってきて教え始めました。次男は



防波堤は壊れたまま

教えられるままに締め直していました。母はそんな二人を嬉しそうに見ていました。母は次男が立ち寄る度に、この大津波で亡くなった自分の実家の孫息子を思い返して言うのです。たった一人しかいない孫息子なので、叔母は手塩にかけて育ててきました。2年前、叔母もいとこも地元就職が決まりとても喜んでいたのでした。今は毎朝、遺影に向かって「今日も気を付けて仕事に行ってくるんだよ」と声をかけているのだそうです。そんな話を聞くと、あの若者達10人の家族がそれぞれに悲しみを新たに、この成人式を迎えているように思いました。



基礎のみ残る家

さて、成人式会場に行ってみると、懐かしいお母さん達も沢山おりました。女子は和服で着飾りきれいに化粧をして、初めは誰か分かりませんでした。町内に中学校は一つしかありませんから、みんな中学校の同級生達です。83名が新成人となりました。笑い声に包まれ、写真を撮り合い、和気藹々の雰囲気でした。私も誘われるままに式場の後方席に座りました。次男も友達と一緒に着座しているのが見えました。式に先立って、この津波で亡くなった10名の名前が読み上げられ、参加者全員で黙祷を捧げました。その子ども達の顔が思い浮かびました。幼馴染みのTちゃんの息子、いとこの息子の名前もありました。お母さん達もハンカチを出して涙を拭いていました。

新成人代表は涙ながらに「私たちは、大津波により、亡くなった同級生の分まで生きたいと思います。この成人式では10人の思い出を私たちの心に改めて刻もうと思います」と述べていました。また、「新成人フリートーク」の時間では大学で法律を学んでいるという若者が「僕たちは、10人もの同級生を津波で亡くしました。人の死というものを目の当たりにして、自分は日本にある死刑制度というものを考えていきたいと思っています」と話していました。記念アトラクションでは、アルパのミニコンサートがありましたが、奏者の方に「今までに成人式の記念コンサートには何度も呼ばれましたが、一番静かに聴いていただきました」と言われました。

式の最後に記念撮影がありました。若者達はステージ前に集合し、写真屋さんの声がけに応じて写真を撮りました。母親グループもカメラを持って前に進み、若者達の晴れ姿を撮りました。1回目の撮影が終わると、若者達は亡くなった同級生の遺影を取り出してきました。2回目の撮影となりました。遺影は最前列で仲良しの友達の膝に抱かれました。「広報新地2月号」には遺影を持った集合写真が掲載されていました。



新成人の若者達

大津波により10人の同級生を亡くしたことは、若者達の心に一生残り、折に触れては人の生と死ということを考えさせてくれることでしょう。日々を大切に、亡くなった同級生の分まで強くたくましく生き抜いてほしいものです。(2013.3.17)

「いがりまさし」さんの写真展を開催します

日時:6月22日(土)～26日(水) 9:30～17:00 ただし22日13時から、26日16時まで

会場:福島県福島市・コラッセふくしま1F アトリウム

主催:高山の原生林を守る会(山の花旅クラブ共催)

写真展では、高山の原生林を守る会会員からの出品コーナーも設ける予定ですので、会員各位におかれましては応募ください。応募写真テーマは「東北で出会ったのスマイル」の花です。展示はA4～A3サイズで20点程度を考えております。締め切りは4月末、奥田へメール(デジタル)、フィルムでは2Lサイズでお送りください。20点集まらない場合にはテーマを広げ「吾妻連峰の花」などを検討中です。

なお伊賀和子さんが、南相馬で7月2日(火曜日)～7月7日(日曜日)までいがりまさし写真展を開催予定です。

運営協力をお願い:6/22は西吾妻ボランティア実施日と重なりますが、写真展の展示と受付のお手伝いをしただけの方が数名程度必要です。協力していただける方はお申し出下さい。

東北70紀行(49)「大震災が教えてくれたものⅧ」 ～線量計を携えた山旅～

奥田 博

福島市を含む原発80km圏内の放射線量が、1年半で半減したと伝えられた。これは文科省のヘリによる調査を原子力機構が分析した結果だ。減少スピードが計算上よりも早いのは、除染によるものではなく、風や降雨などの自然環境による減少が主な要因。この数値は、我々が霊山で2年間計測した結果とも一致する。「除染しても線量が元に戻る」という話はよく聞く。これはまさに放射性物質が風で漂い、雨で流れた結果によるものだ。山で線量を計測していると、次第に線量が平均化していることに気付くのは、まさに放射性物質が拡散と攪拌によって薄く広く分布された結果によるものと考えられる。

大震災から2年を経過した今年3月11日の前後に、大震災に関わる放送が相次いだ。大地震のメカニズム、大津波への対応、復興の遅れなどが報道された。原発事故もまた、各局が取上げ報道された。その中で印象的なのは、多くの人々が避難所暮らしの中で、未来を見通せない生活の苦しさ。今だ31万5000人が避難生活を送っている現実。さらに廃炉に向けた作業の困難さや課題が浮き彫りにされた。原発事故後の厳しい現実が伝えられていた。

しかし昨年末に行われた衆議院議員選挙で、原発を推進する党が圧倒的な数で躍進した。もっとも驚かされたのは、原発事故当事県である福島県ですら、原発推進党が圧勝したことだ。忘れやすい日本人と揶揄されても、あまりにも忘れやすく、現実を見ていないことに驚かされた。原発事故は争点にならないように、報道も控えめだったこともあるだろう。小選挙区制度の問題もあるだろう。しかし現実には選挙結果により、確実に日本全国の原発は稼働を始めるだろう。我々は、そんな政党に一票を投じたのだから、これで10年、20年経った時に原発が止まっていることはなくなった。事故直後、日本全国で行われた節電は、すっかり忘れられ、街ではネオンが輝き、電車の間引き運転はなくなり、工場や家庭での節電話しは聞かなくなった。そして東北電力まで値上げ申請された。

3月9～10日にNHKで放映された『メルトダウン～原子炉「冷却」の死角』は、原発事故の原因の核心に迫る内容で面白かった。なぜメルトダウンは防げなかったか。慣れない(訓練をしたこともないので当たり前だが)事故対策の遅れ、特に電源喪失への対応に関しては、大混乱の中で試行錯誤していたことが分かってきた。個々に見ていけば水位計の欠陥、復水器の欠陥、外部注水の欠陥、全体システムの欠陥等々。福島原発事故の原因究明が行われていない内に、大飯原発は稼働し、今後も再稼働が続くだろう。危うい原発の運用は次第に増え、やがて忘れやすい国民は、それが当然のごとく受け止められていく。ソフト面・体制面の課題～避難方法、ヨウ素剤の配布法など～もなおざりにされていくだろう。3月18日午後7時頃に電源を喪失し、1、3、4号機の使用済み核燃料プールと共用プールの冷却装置が29時間にわたって止まる事故は、改めて東電の危機管理の甘さをまた露呈した事故だった。そして帰宅を進める自治体、区域外の自治体も同様、何の訓練も行わないなど危機管理はなっていない。以前にもこの稿で述べたが、この事故を機会に取組んで欲しいと願う。

現在の原発避難区分は、住民を町へ戻すための区分に細分化され始めている。警戒区域、計画的避難準備区域、避難指示解除準備区域、居住制限区域、帰還困難区域。警戒区域と帰還困難区域以外は自由に人は出入りが可能だ。年末に、佐藤守さん、小幡さん等と居住制限区域の山である飯館村の野手上山を歩いた。車を降りると線量計は4 μ Sv/hを超えている。防護服を着た方がいいような久し振りの緊張感。この山は森が素晴らしく、ケヤキ、サワグルミ、イヌブナ、シデ類などの大木が見られる。その森に入ると、アカマツを交えた雑木林の線量は高く、6 μ Sv/hを超える個所が多い。地面に近い場所では10 μ Sv/hを超えていた。ここに来ると原発事故の収束など程遠いことが実感できる。飯館村の草ぼうぼうの田んぼや畑。その周囲を囲むように、このような汚染された山が迫り、汚染された森が覆う。除染など技術的には困難だろう。今後30年間は、人が戻れない場所かも知れないと思わせた。

(写真) 落葉に覆われた登山道は6 μ Svを超える



ニリンソウ (*Anemone flaccida* キンボウゲ科イチリンソウ属)

コナラ林からミズナラ林にかけての沢周辺の湿った林床に植生する多年草。スプリングエフェメラルの代表的な植物である。吾妻・安達太良連峰では植生域が里山から雪深い深山に及ぶことから花は4月初めから5月までの長期間にわたって観察することができる。種小名は柔らかく、ぐにゃぐにゃしていることを意味する。

葉は、根生葉と花茎の途中にある総苞葉の2種類ある。雪解けと同時に地下茎の先端から直接、根生葉を伸ばす。根生葉は3裂し、両側の裂片は更に深い2裂片に分かれる。

花は地下茎から直接、花茎を伸ばし、途中の輪生する柄の無い3枚の総苞葉の中心から発生した2つの花茎の先に1輪つつ花を着生する。総苞葉が発生する花が2輪が多いのでニリンソウと命名されたが、着花数は1〜4花の変異がある。花弁はなく白い花弁に見えるものはがくが変異したもの。がく片の裏側が赤いものや開花後しばらくは赤みが残る個体もある。雄しべは多数あり、雌しべは10個程度ある。総苞葉の中心から発生する2本の花茎は同時に成長することはない、片方が遅れて伸長する。これはハナアブが花を訪れる期間を長くして受粉のチャンスを多く確保するための戦略である。

ニリンソウはキンボウゲ科の中では珍しく毒はなく、山菜として利用されるが、植生域がオクトリカブトと重なるため、混生することも珍しくない。オクトリカブトとは一見して葉の形状が似ている。オクトリカブトの葉は表面に白い斑点がなく、裏面は紫を帯びていることが見分ける手掛かりになる。

地下茎と種子で繁殖するが、地下茎の発達が良いことから大群落を形成しやすい。里ではウワミズザクラが咲き始め、奥山では雪解け水によりせせらぎの響きが高まる頃に、芽吹きを求めて、高山山麓を訪れた際に、沢の源頭部付近で、ニリンソウの大群落に遭遇した。ケヤキが混じるミズナラ林の林床は、ニリンソウ独特の緑葉と白い花で埋め尽くされていた。ニリンソウは沢が似合うと思うが、山の凹地など湿気のたまりやすいところでも良く見られる。



サンカヨウ (*Diphylleia grayi* メギ科サンカヨウ属)

ブナ林からオオシラビソ林の湿った凹地や沢沿いに植生する多年草。通常はササの植生が途切れ、雪が遅くまで残る場所でコロニー状に小群落を形成する。地下茎から直接直立した茎を伸ばす姿はフキのようでもある。雪解けと同時に急速に茎を伸長させる。属名はギリシャ語に由来し、「dis(2) + phyllon(葉)」で、2葉を有するものを意味し、1本の茎に2枚の葉がつくことから名づけられた。吾妻・安達太良連峰に自生するメギ科の植物にはレイヨウボタン、イカリソウがあり、いずれも花の形が個性的である。メギ科の花は2種類のがく片を持つものがあり、外側から外がく片、内がく片と呼ぶ。

葉は互生で、茎の先端に偏円形の大きな葉を2枚着生する。中央部の先端側と基部側の深い裂刻が葉を左右に分ける。葉縁は不ぞろいで粗い鋸歯がある。下位の葉は大形で有柄であり、葉柄は葉の中央より茎側に着生する。これがハスの葉に似ていることから山の荷葉(ハス)とされたとする説がある。上位の葉は小さく葉柄は無い。葉と茎に短くちぢれた毛がある。

花は頂性で茎の先端から花茎を伸ばし集散花序を形成する。外観上は上位の葉に花序が乗っかっているように見える。がく片(外がく片)と花弁(内がく片)は6個、雄しべが6本で3数性を示す。双子葉植物で3数性を示す花は珍しい。がく片は開花後まもなく落下する。花の中央に緑色の太い雌しべがあり、雌しべ先端の柱頭は3裂し、半透明の花弁状を呈する。雄しべは花糸の先に楕円形の葯室を着ける。その両側にオレンジ色の線状のふたがあり、開葯時にはこのふたがまくれあがって穴があき花粉を飛ばす。これは弁開葯と呼ばれる。開花は開葉と同時期で、1花の寿命は極めて短い。開花間もない花は淡い芳香がある。

サンカヨウの果実は液果であり、夏の終わり頃になると瑠璃色に着色し、白い果粉をまとい成熟する。果実は数個の大きな種子を持つ。

開花したサンカヨウの姿は明緑色の大きな葉のマントを羽織ったような花群のたたずまいが気品を感じさせる。深みのある白い花弁の中を覗くと緑色の雌しべとオレンジ色の葯とのコントラストが清涼感を誘い、清楚。やがて開葯した雄しべがコミカルに踊るイメージを添える。散り際には、半透明の解けかかった花弁が怪しげな光彩を放つ。



第 127 回自然観察会案内：小鳥の森・スプリングエフェメラル観察会

日時：2013 年 4 月 14 日（日）8：00～15：00

集合場所 小鳥の森第一駐車場 集合時間 8:30 参加定員 20 名

内容 里山に春を告げるスプリングエフェメラルと馬酔木の花を訪ねます。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用:保険代(300 円)

申し込み:4 月 13 日(土)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後 7 時～9 時でお願いします)。

第 128 回自然観察会案内：米沢 斜平山新緑と春の花巡り観察会

日時：2013 年 5 月 12 日（日）7：00～15：00

集合場所 福島県果樹研究所

集合時間 7:00 参加定員 20 名

内容 ネイチャー・フロント米沢と共催で斜平山の新緑と春の花を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋(軍手複数)、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用:保険代(300 円)

申し込み:5 月 11 日(土)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後 7 時～9 時でお願いします)。

西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア(NF 米沢と共同:詳細は佐藤守まで)

1. 実施日:6月22日(土)6時30分～17時30分(雨天時6月23日に順延)
2. 定員 :10 名(山岳での行動において自己管理のできる方)
3. 内容 :天狗岩～西吾妻避難小屋湿地帯(Aコース:6名)と西大巔水場周辺(Bコース:4名)の誘導ロープの設置作業を行います。
4. 集合場所・時間:福島県果樹研究所 6時30分
5. 参加費 :1000 円(ゴンドラ・リフト代の1部を負担願います)
6. 申し込み:5 月 20 日(金)まで佐藤守(024-593-0188)へ電話またはメールにてお願いします(電話申込は午後 7 時～9 時でお願いします)。

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替 02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」へ

【編集後記】第 126 回観察会は、強風雪により中止になり、有志で水林公園を散策しました。この時期の水林公園は久しぶりでしたので新鮮な感覚でした。アカシデが思いのほか多いことやナツツバキ幼木の樹皮模様と冬芽は新発見でした。冠雪したマンサクの枝先に咲き始めた数輪を見つけ、参加者一同、大興奮でした。マンサクの開花は予期していませんでしたが、その後、季節は急速に春めいているようです。あの時のマンサクの花は今年の早い春を予感していたのかもしれませんが。今はマンサクの花は散り、ケヤマハシノキの花が満開となっています。そういえば吾妻小富士の種まきウサギも今年は 2 月下旬から姿を現し、例年より早いようです。



「高山」高山の原生林を守る会会報 第 84 号 2013 年 3 月発行

編集・発行：高山の原生林を守る会 HP: <http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>

代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188 (夜間 7 時～9 時)

郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」

入会方法：年会費(500 円)を添えて上記まで

編集：佐藤・奥田・鈴木